第 11 号（令和元年 5 月 1 日）

登別市史編さんだより

登別市総務部市史編さんグループ
担当　千葉・菅野・更科・佐藤・玉田
〒059-8701
登別市中央町６丁目１１番地
Tel 0143-50-6039
Fax 0143-85-1108

調査報告　片倉旧家臣団の一人・明珍家を訪問しました

明珍鉄工所（恵庭市）の外観

片倉旧家臣団の一員として明治３（1871）年に宮城県白石から幌別郡に移住し、その後、札幌市を経て現在は恵庭市に居住する移住５代目の明珍（みょうちん）武康さんを訪問しました。

明珍家は、室町時代末期に名を挙げて多数の甲冑（かっちゅう）師を輩出した一族で、幌別郡にも鍛冶職人として移住してきています。

明珍さんからは、幌別郡への移住の際に嵐に遭い、船を軽くするために家財道具を海に投げたこと、移住２代目の傅助（せんすけ）が札幌市に移住して開拓使工業局に出仕したこと、その後、現在の恵庭市に移住して、畑作のかたわら鍛冶職人も続け、同地の農業者が使用する農具の改良に努めたことなどのお話を伺うことができました。また、「連」「清太夫」などと資料により異なる名前が出てくる人物について確認をすることができました。

恵庭市に移住してからの明珍家の活躍は、『恵庭年代記』に詳しく紹介されています。

写真紹介　美園町での農作業と上鷲別神社

昭和 30 年代の農作業の様子

左の写真は、美園町から上鷲別町にかけて牧場などを経営していた市民の方からご提供いただいた写真です。

写真に写るのは、昭和 30 年代に上鷲別（現在の美園町５丁目）で行われていた馬を使用した農作業（畑起し）の様子です。

背景には、農機具をしまう物置として使用していた茅（かや）葺きの小屋や、上鷲別神社が写っています。

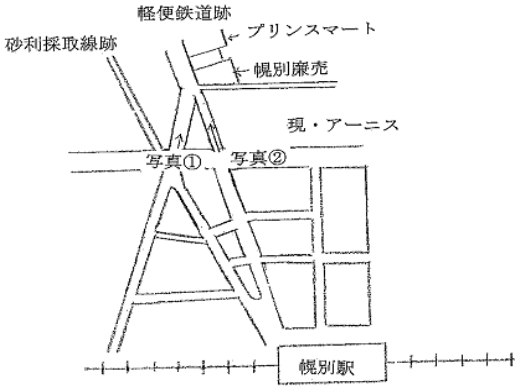
提供いただいた写真の中には、上鷲別神社の前で「地鎮社」と書かれた幟（のぼり）を掲げ、神主を招いて神事を行う写真もあり、地域住民が同社を土地の神様として大切に祭ってきた様子が伺われます。

上鷲別神社の社殿は、昭和 53（1978）年に上鷲別墓地の近くに移転しますが、ほどなくして現在の場所に移転します。

昔の街並み　中央町

●砂利採取線跡地（幌別駅前）

昭和 35 年　撮影



幌別駅は、明治 25（1892）年に現在より数百メートル白老町側の位置で開業しますが、明治 32（1899）年 12 月に駅舎が焼失し、明治 35（1902）年の再建時に現在地に移転します。

駅舎移転の工事で使用された砂利は胆振幌別川から採取され、その砂利を運搬する線路が幌別駅前から胆振幌別川河畔（現在の幌別西小学校裏）まで敷設されました。この路線は、アジア・太平洋戦争後も砂利採取、次いで社宅街への物資運搬に活用されました。

●「三角地帯」の様子

写真①（昭和 47 年　撮影）

写真②（昭和 29 年　撮影）

砂利採取線や鉱山町に向かう軽便鉄道に囲まれた中央町２丁目から３丁目にかけての地域は三角形の区画を形成し、「三角地帯」と通称されました。

写真は中央町３丁目側の「三角地帯」の両辺を撮影したもので、道路の奥には「プリンスマート」が見え、写真①では「幌別廉売（れんばい）」も確認することができます。

「三角地帯」は、平成７年度から始まる北駅前通改良事業において姿を消しますが、その名残をカメラのアサヒ堂前の歩道などに留めています。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ　千葉・菅野・更科・佐藤・玉田

電話：0143-50-6039　FAX：0143-85-1108